

マイ・インターン

THE INTERN

映画で学ぶ 「相手の話を聴く力（傾聴）」

対象：12歳以上（小学校高学年～中学生）

名前

年 組

1 「聴く力」ってなに？

アサーティブは「自分も大切、相手も大切」な伝え方でした。この「相手も大切」を行動にするのが、**相手の話を聴くこと**です。コミュニケーションの主役は、じつは「口」より「耳」かもしれません。

👂 まず聴く → それから伝える

🔑 やりがちな「3つのつまずき」

① 相手が話し終える前に、答えを言ってしまう ② すぐ「こうすべき」とアドバイスする ③ 自分の話にすり替えてしまう。

この映画のベンは、この3つをしません。だから相手は「わかってもらえた」と感じます。

2 傾聴の4つのコツ

「傾聴」とは、心をかたむけて聴くこと。すぐ真似できる4つのコツです。

■ ① 体を向ける・目を見る

「聴いているよ」が態度で伝わる。

■ ② 最後まで聴く

途中でさえぎらない。沈黙をこわがらない。

■ ③ うなずく・あいづち

「うん」「そうなんだ」で話しやすくする。

■ ④ 質問で深める

「それで、どう感じたの？」と気持ちを引き出す。

3 映画『マイ・インターン』とは

📖 あらすじ

ベン・ウィテカーは70歳。会社を定年退職し、毎日にももの足りなさを感じていました。そんなとき「シニア・インターン（年上の新人）」の募集を見つけ、応募します。

働き先は、若い社長ジュールズがつくった、急成長中のファッション通販の会社。ベンはでしゃばらず、よく見て、よく聴きます。困っている人にそっと手を貸し、信頼を積み上げ、やがてジュールズにとっていちばん相談できる人になっていきます。

👁️ ベンの「聴き方」3つのポイント

- ① すぐ答えを出さず、最後まで待つ
- ② 表情や様子までよく見る（観察する）
- ③ 相手を否定せず、まず受けとめる。

🕒 時代の変化も

ベンの元の仕事は「紙の電話帳を作る会社の役員」。道具は変わっても、人の話を聴く力は古くならない——そんなメッセージも込められています。

4 聴き方ワーク（観察シート）

👉 ベンが上手に聴いている場面を1つ選んで、書き出そう

① 選んだ場面（だれと、どんな場面？）

② ベンはどんな「聴き方」をした？

③ 相手（ジュールズなど）はどう変わった？

④ 4つのコツのどれを使っていた？

☐ 目を見る ☐ 最後まで聴く ☐ あいづち ☐ 質問で深める

⑤ その聴き方の、どこがよかった？

5 ペアで「聴く」練習

2人組で、片方が30秒～1分「最近うれしかったこと」を話し、もう片方は**4つのコツ**だけで聴きます。
こうたい
交代したら、下をうめましょう。

聴いてもらって、どんな気持ちだった？

.....

聴く側でむずかしかったことは？

.....

相手が使ってくれてうれしかったコツは？

.....

6 ふりかえり

今日、わたしは _____ という「聴き方」が大切だと分かり
ました。これから、 _____ のときに、
_____ を試してみたいです。



「まず聴く。それから伝える。」

先生・保護者へ：『マイ・インターン』は日本で**映倫G（全年齢）**ですが、働く大人の物語で、夫婦・家庭の悩みなど、やや大人向けの話題も出てきます。本資料は12歳以上を想定しています。全編視聴のほか、あらすじ紹介や場面を選んでの活用も可能です。